

初期臨床研修プログラム

2024 年度



KKR 札幌医療センター
KKR SAPPORO MEDICAL CENTER

臨床研修管理委員会

1. 病院の概要 (2023年4月現在)

KKR 札幌医療センター (基幹型病院)

開設者：国家公務員共済組合連合会

病院長：磯部 宏

所在地：〒062-0931 北海道札幌市豊平区平岸一条六丁目3-40

電話：011-822-1811

FAX：011-832-9859

メールアドレス：kensyu@kk-smc.com

ホームページ：http://smc.kkr.or.jp

最寄駅と交通機関：札幌市営地下鉄 南北線 平岸駅 徒歩3分

病院の理念

“病院は人”のところで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります

生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします

温かな配慮で安寧につくします

《寄り添うKKR(こころ)・安心をあなたに》

シンボルマーク



象形文字で表された心と手は“まごころ”と“高度医療技術”のシンボル。
この二つを永久(とわ) (∞)に両立させることを表します。



病院の基本方針

“生活の質”向上に重きをおく医療を心がけます

安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します

患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します

医療の情報を進んで開示します

地域に信頼される医療を目指します

診療内容紹介（2023年4月現在） ※実績は2022年度

診療科 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、代謝・内分泌・糖尿病内科、腫瘍内科、精神科
緩和ケア内科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科、腫瘍外科、
人工透析外科、内分泌外科、小児科、小児科（新生児）、整形外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、
泌尿器科、皮膚科、眼科、麻酔科、脳神経外科、心臓血管外科、心臓外科、血管外科、
放射線科、救急科、放射線診断科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科

（35科）

医師数：103名

病床数：410床

入院患者数：10,530人

外来患者数：239,149名

平均在院日数：10.3日

救急車搬入平均件数：298.8件/月

病院の沿革、特徴

当院は昭和27年国家公務員の結核対策として、病床数154床で開院いたしました。時あたかも結核に対する化学療法幕開けの時期でもあり、その後続々と開発された抗結核薬による治療の進歩とともに、多くの患者を受け入れ病院は規模を拡大していきました。昭和40年頃までは入院患者の殆どが結核患者でしたが、一般患者も徐々に増加、病院周辺の宅地化、疾病構造の変化に対応すべく、昭和50年頃より総合病院へと転換を行いました。平成17年には斗南病院（現 国家公務員共済組合連合会斗南病院）との統合計画に基づく新病院第一期工事が完成、脳神経外科、心臓血管外科、放射線治療部門、緩和ケア病棟、救急センターを開設、翌平成18年3月の第2期工事完工をもって、これまでの幌南病院からKKR札幌医療センターとして再出発いたしました。現在は診療科35科、病床数410床を有する札幌市南部の中核病院として機能しています。あくまでも地域に根ざした診療を心がけており、専門性に偏ることなく、幅広い疾患の初期診療に対応するとともに、救急患者の受け入れも積極的に行っております。また、大学病院に近いこともあり、各診療科において大学と多数の共同研究が行われており、最新の知識が得やすい環境にあるのも特徴の一つといえます。



昭和34年



平成2年

2. 初期臨床研修プログラム

プログラム責任者 代謝内分泌内科

臨床研修管理委員長 渡部 拓

1. プログラムの特徴

初期臨床研修の1年目では、急性期病院としての当院の特色を生かし、内科分野の幅広い研修と救急・麻酔科での研修を中心に行い、プライマリ・ケアに必要な基本的な知識や技術の習得を目的とします。臨床研修に加えて、定例研修会などでプライマリ・ケア診療を学び直し、その知識や技術を整理して定着させます。研修2年目では、研修協力施設における地域医療研修を必修としています。そのほかの2年間の研修期間は、外科と小児科、産婦人科、および協力型研修病院における精神科研修を必修としているほかは、全診療科から自由に研修科を選択することができ、研修医自身が将来の専門性を見据えた効率的な研修の組み合わせを自主的に行えます。また研修期間中には、基本的な診療において必要な分野・領域等に関して様々な研修会や講習会が生まれ参加が必修とされています。2年間の研修を通して、知識や技術の習得に加え、医療における倫理観や医師としての心構えや態度を身につけ、また、医師やコメディカルスタッフによる診療カンファレンスへ参加し、チーム医療に携わることができるように配慮されています。

2. プログラムの理念・目標

病院の理念である“病院は人”のところで、良き医療人を目指し、自己研鑽に努めることを理念とし、以下の基本項目を習得することを研修目標とします。

- ・将来の専門にかかわらない、全ての臨床医に求められる基本的な診療の知識や技術
- ・医療における倫理観や社会人としての医師の役割の認識、患者を全人的に理解して尊重する態度
- ・生涯学習・教育に必要な自己啓発力

3. 研修参加施設

基幹型臨床研修病院：KKR 札幌医療センター

協力型臨床研修病院：医療社団法人慈藻会平松記念病院（精神科研修）

協力型臨床研修病院：北海道大学病院

協力型臨床研修病院：札幌医科大学附属病院

協力型臨床研修病院：国家公務員共済組合連合会斗南病院

協力型臨床研修病院：JCHO 北海道病院（産科研修）

協力型臨床研修病院：国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院

4. 地域医療

臨床研修協力施設：町立中標津病院（中標津町）

臨床研修協力施設：函館市医師会病院（函館市）

臨床研修協力施設（協力型臨床研修病院）：済生会小樽病院（小樽市）

臨床研修協力施設：北広島病院（北広島市）

臨床研修協力施設：恵庭南病院（恵庭市）

臨床研修協力施設：静明館診療所（札幌市）

5. 研修スケジュール

当院の初期臨床研修目標を達成し、研修医それぞれが将来のキャリアアップを目指し、医師として必要な知識や技術を習得するために、柔軟な対応が可能なプログラムを設定しています。研修1年目に6か月(24週)の内科研修と3か月(12週)の救急・麻酔科研修を行い、研修2年目に1か月(4週)の地域医療研修を行います。その他の研修期間は、外科や産婦人科、小児科、精神科の1か月(4週)の必修研修を含めた上で、全診療科の中から自由に研修科を選択できます。

(A) 必修分野の研修について

① 内科研修

研修1年目には内科研修を6か月(24週)の研修期間で行います。研修は呼吸器、消化器、循環器、代謝・内分泌・糖尿病の4つの内科から選択しますが、それぞれの診療科では2か月(8週)の研修期間を原則とします。また、内科研修はその一部を2年目で行っても良く、また、2年目に再び同じ診療科を研修してもかまいません。なお、内科研修中にはソーシャルワーカー等とともに患者の社会復帰支援のプロセスを学ぶ必要があります。また、代謝・内分泌糖尿病内科ローテーション中には健診に参加して診察や健康指導を行う機会を持ちます。

② 救急研修

研修1年目の救急のブロック研修として、3か月(12週)の救急・麻酔科研修を行い、消化器2次救急およびケガ・災害2次救急などは上級医の指導のもとで救急患者の初対応にあたります。さらに、平日の専門救急や土曜日の日中の新患患者の救急外来診療にも携わります。救急ブロック研修のうちの1ヶ月間は麻酔科研修となり、麻酔科医の指導のもとに輸液や輸血療法を学び、気道確保・静脈・動脈ライン確保の手技を習得し、手術中の呼吸循環動態管理などを経験し、重篤な救急患者診療のための知識や技術を身に付けます。また研修医1年目の間は、救急ブロック研修以外の時にも、循環器・呼吸器2次救急当番日やACS(急性冠症候群)当番日、消化器2次救急当番日などに、月に4回程度の副日当直研修に入ることで、救急科の並行研修を行いません。なお、並行研修中(救急ブロック研修以外の時)の2次救急以外の副当直は23時で終了となり、翌日のローテーション中の科の研修に影響が出ない様にします。

研修開始半年後以降に、小児科研修を経てからは、希望により小児科2次救急当番日の副当直に入り、小児救急の研修をすることもできます。

各内科研修、救急ブロック研修を終えた研修医2年目には、病院日当直を担当し、通院患者の時間外診療に対応し、必要に応じて各診療科当番医に引継ぎ、指導を受けることで、救急診療の実践経験と知識を深めます。また、希望により研修医2年目にもローテーション中の科の研修に差し支えない範囲で各種2次救急の副当直で入り、上級医からの指導を受けながら経験を積むこともできます。

③ 地域医療研修

研修 2 年目には、臨床研修協力施設／病院での地域医療研修を 1 か月(4 週)行います。6 つの臨床研修協力施設の中から選択し、地域の一般外来診療や在宅医療の研修、慢性期・回復期病棟での研修、地域包括ケアの実際なども含めて研修します。

④ その他の必修分野研修

外科、小児科、産婦人科、精神科の必修分野に関しては、2 年間の何れかの希望の時期にそれぞれ 1 か月(4 週)の研修を行います。協力型臨床研修病院での精神科研修および産科研修は年度ごとの希望者数と受入人数との関係で研修時期(年度)を調整します。

なお、小児科研修中には予防医療の研修のために予防接種業務に参加します。

⑤ 一般外来研修

1 年目の内科研修時には週 1 回程度の新患外来に携わることで、4 週以上の一般外来を並行研修し、指導医のもとでより多くの common disease の経験に努めます。また、小児科の必修分野研修でも週 1 回程度の一般外来を並行研修し、指導医のもとで初診患者の診療に当たります。2 年目の地域医療研修においては初診患者や慢性疾患患者の継続診療を含む一般外来での研修を含めます。

(B) 自由選択研修

必修分野研修を除いた期間については、研修医自らが自分の将来を考慮し、自由に研修科を選択することができます。

基幹病院である K K R 札幌医療センターでの研修が困難な診療科を希望する場合には、協力型病院での研修となりますが、研修期間については 8 週を超えないものとします。

(C) 研修プログラム参考例

将来の専門性を考慮し、必修分野以外の診療科も含め2年間の研修を例示したものです

1.将来呼吸器内科医を目指す研修スケジュール例				
1 年 目	必修分野	内科	8か月(32週)	4つの内科を2か月(8週)ずつ研修
	必修分野	救急・麻酔科	3か月(12週)	救急科1か月(4週)・麻酔科2か月(8週)
	必修分野	小児科	1か月(4週)	
2 年 目	必修分野	地域医療	1か月(4週)	臨床研修協力施設/病院から選択
	必修分野	精神科	1か月(4週)	平松記念病院
	必修分野	外科	1か月(4週)	
	必修分野	産婦人科	1か月(4週)	産科研修2週間 JCHO北海道病院
	必修分野	内科	4か月(16週)	内科疾患の研修
	自由選択	病理診断科	1か月(4週)	生検組織診断などの研修
	自由選択	緩和ケア内科	1か月(4週)	呼吸器疾患の緩和ケア研修
	自由選択	放射線診断科	1か月(4週)	呼吸器疾患の放射線診断の研修
自由選択	放射線治療科	1か月(4週)	呼吸器疾患の放射線治療の研修	

2.将来外科医を目指す研修スケジュール例				
1 年 目	必修分野	内科	8か月(32週)	4つの内科を2か月(8週)ずつ研修
	必修分野	救急・麻酔科	3か月(12週)	救急科1か月(4週)・麻酔科2か月(8週)
	必修分野	外科	1か月(4週)	外科疾患の研修
2 年 目	必修分野	小児科	1か月(4週)	
	必修分野	産婦人科	1か月(4週)	産科研修2週間 JCHO北海道病院
	必修分野	地域医療	1か月(4週)	臨床研修協力施設/病院から選択
	必修分野	精神科	1か月(4週)	平松記念病院
	自由選択	外科	3か月(4週)	
	自由選択	整形外科	1か月(4週)	けがや骨折などの外傷性疾患の研修
	自由選択	心臓血管外科	1か月(4週)	循環器外科疾患の研修
	自由選択	泌尿器科	1か月(4週)	
自由選択	病理診断科	1か月(4週)		
自由選択	放射線診断科	1か月(4週)	外科疾患の放射線診断やIVRの研修	

3.将来小児科医を目指す研修スケジュール例

1 年 目	必修分野	内科	8か月(32週)	4つの内科を2か月(8週)ずつ研修
	必修分野	救急・麻酔科	3か月(12週)	救急科1か月(4週)・麻酔科2か月(8週)
	必修分野	産婦人科	1か月(4週)	産婦人科2週間 JCHO北海道病院
2 年 目	必修分野	外科	1か月(4週)	
	必修分野	地域医療	1か月(4週)	臨床研修協力施設/病院から選択
	必修分野	精神科	1か月(4週)	平松記念病院
	必修分野	小児科	5か月(24週)	
	自由選択	耳鼻科	2か月(8週)	小児の耳鼻科疾患の研修
	自由選択	皮膚科	1か月(4週)	小児の皮膚科疾患の研修
	自由選択	放射線診断科	1か月(4週)	小児の放射線診断の研修

6. 研修会・講習会・セミナーなど

初期研修医オリエンテーション	1週間（1年目初期研修医入職時）
CPC	月1回開催（第4水曜日）
がんサーボード	月1回開催（第2月曜日）
BLS講習会	年1回開催 1年目初期臨床研修医
JMECC講習会	年1回開催 2年目初期臨床研修医
緩和ケア研修会	年1回開催 2年目初期臨床研修医
感染対策に関する講習会	年2回開催（4月、11月）
医療安全に関する講習会	年2回開催（4月、11月）
災害トリアージ訓練	年1回（2月）
虐待への対応に関する講習会	年1回開催（10月）
依存症に関する講習会	年1回開催（12月） 1年目初期臨床研修医
ACPに関する講習会	年1回開催（2月） 1年目初期臨床研修医
社会復帰支援に関する講習会	年1回開催（2月） 1年目初期臨床研修医
定期イブニングセミナー	年32回開催
定期モーニングセミナー	年23回開催
研修医による勉強会	月2回開催（第1、2金曜日）
研修医症例発表会	年2回開催（11月、2月）

7. 研修評価方法

研修開始にあたり、研修医に「研修医ノート」が配布されます。各研修科では、指導医がPG-EPOCでそれまでの研修進捗状況を点検し、研修医の到達目標が達成されるよう援助します。研修医は「研修医ノート」の規定に従って臨床研修を進め、方略の経験すべき29症候／経験すべき26疾病・病態の該当項目を経験した場合には必要事項をPG-EPOCに登録し、指導医または上級医は診療録（電子カルテ）の記載（病歴要約など）に基づいてそれを確認します。考察は別紙にて作成し、病歴要約などと共に指導医に提示し、評価・承認の受けたのち、PG-EPOCに登録します。研修科の終了時には、PG-EPOCの「研修医評価表Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ」で到達目標の達成度について自己評価を行い、続いて指導医、および医師以外の医療職にPG-EPOCで同じ評価を依頼し、次の研修科に臨みます。また、基本的な診療において必要な分野・領域等に関して研修した場合の記録もPG-EPOCに登録します。

年3回を目処として、委員長と副委員長、チューターおよび研修センター担当者と1年目または2年目初期研修医が検討会を開き、PG-EPOCを利用してそれまでの研修進捗状況を点検し、研修医の到達目標の達成状況についてフィードバックします。また、研修上の問題点などについて話し合い改善策を検討します。

8. プログラム修了の認定

臨床研修の目標の到達度判定票の記載に基づいた臨床研修管理委員会の報告を参考に、病院長は研修修了を認定し、臨床研修修了証を交付します。

3. プログラムの管理運営

臨床研修管理委員会を年3回開催し、指導体制の整備、年度臨床研修計画、臨床研修医の募集や採用と配置、臨床研修実施後の評価などに関し、審議します。また、臨床研修管理委員会の規定に基づき、臨床研修に関する事項につき協議し決定します。毎年第3回目の委員会では当年度の臨床研修プログラムの評価を行うとともに、それに基づいて翌年度の研修プログラムの見直しと修正を行います。

臨床研修管理委員会構成員

	氏名	所属	役職
委員長	渡部 拓	KKR 札幌医療センター	代謝内・内分泌科部長
副委員長	佐藤 寿高	KKR 札幌医療センター	呼吸器内科医長
委員	平野 聡	北海道大学病院	臨床研修センター長、消化器外科Ⅱ教授
委員	佐川 洋平	平松記念病院	診療副部長
委員	久保 光司	町立中標津病院	院長
委員	合田 晶	あいだクリニック循環器内科	院長
委員	和田 卓郎	済生会小樽病院	院長
委員	野村 直弘	北広島病院長	理事長・院長
委員	島田 道朗	恵庭南病院	理事長・院長
委員	金子 行宏	函館市医師会病院	院長
委員	大友 宣	静明館診療所	医師
委員	北城 秀司	斗南病院	診療部長
委員	辻 善久	札幌医科大学付属病院.	臨床研修・医師キャリア支援センター長
委員	山田 俊	JCHO 北海道病院	副院長

	氏名	所属	役職
委員	磯部 宏	KKR 札幌医療センター	院長
委員	瀧川 千鶴子	KKR 札幌医療センター	副院長
委員	加藤 正仁	KKR 札幌医療センター	診療部長、脳神経外科
委員	斎藤 拓志	KKR 札幌医療センター	診療部次長、学生教育部長
委員	今 裕史	KKR 札幌医療センター	診療部長、外科部長
委員	小林 一郎	KKR 札幌医療センター	小児・アレルギーリウマチセンター長
委員	関 英幸	KKR 札幌医療センター	消化器科センター長
委員	神垣 光徳	KKR 札幌医療センター	循環器科センター長 救急体制検討委員長
委員	白井 真也	KKR 札幌医療センター	循環器内科部長
委員	本多 敏朗	KKR 札幌医療センター	糖尿病内科部長
委員	西 信也	KKR 札幌医療センター	母子・女性センター長
委員	渡部 亮	KKR 札幌医療センター	麻酔科部長、手術部部長、ICU 部長
委員	田中 輝明	KKR 札幌医療センター	診療部次長・精神科部長
委員	鈴木 昭	KKR 札幌医療センター	病理診断科部長
委員	大場 洋子	KKR 札幌医療センター	緩和ケア内科部長
委員	松園 絵美	KKR 札幌医療センター	消化器内科医長
委員	佐々木 正	KKR 札幌医療センター	事務部長
委員	中野 りか	KKR 札幌医療センター	看護部長
委員	本宮 秀人	KKR 札幌医療センター	事務部次長、総務課長
委員	百瀬 幸枝	KKR 札幌医療センター	臨床研修センター係長
委員	伊東 規子	KR 札幌医療センター	臨床研修センター事務員

各診療科指導担当医名簿

※ ○は指導医講習会受講者

担当分野	氏名	※	役職	出身校	卒業年度	資格等
呼吸器内科・腫瘍内科	磯部 宏	○	院長	北大	1981	日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医、日本診療録管理学会診療情報管理士
	齋藤 拓志	○	診療部次長 学生教育部長	北大	1989	日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医
	小島 哲弥	○	腫瘍センター長 化学療法副センター長 治験管理センター長	北大	1992	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
	福家 聡	○	診療部次長 感染制御部部長 医療安全管理部副部長	香川医大	1997	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本感染症学会ICD、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸ケア指導士
	品川 尚文	○	呼吸器センター長	旭医大	1996	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
	伊藤 健一郎	○	呼吸器内科部長	北大	2002	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医
	荻 喬博	○	呼吸器内科医長	徳島大	2005	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会専門医
	佐藤 寿高	○	呼吸器内科医長	札医大	2007	日本内科学会総合内科専門医
	松永 章宏		呼吸器内科医員	北大	2016	
消化器内科	関 英幸	○	消化器センター長	北大	1989	日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医
	藤田 淳		健康管理センター長 消化器内科医師	順大	1985	日本内科学会認定内科医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会化器内視鏡専門医
	菅井 望	○	消化器内科部長 内視鏡センター長	北大	1996	日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
	曾我部 進	○	腫瘍内科部長 入院・外来化学療法室長 消化器内科部長代行 治験管理センター副センター長	北大	2003	日本消化器病学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器内視鏡学会専門医
	小林 良充		消化器内科医長 腫瘍内科医長	北大	2005	日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本内科学会総合内科専門医
	松園 絵美	○	消化器内科医長	旭医大	2007	日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本カプセル内視鏡学会認定医
循環器内科	神垣 光徳	○	循環器センター長	北大	1996	日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医
	白井 真也	○	循環器内科部長	北大	1996	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医
	伊東 直史	○	CCU部長 循環器内科部長代行 初期臨床研修医指導副部長	北大	1997	日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医

担当分野	氏名	※	役職	出身校	卒業年度	資格等
代謝・内分泌・糖尿病内科	本多 敏朗	○	糖尿病内科部長	北大	1991	日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本医師会認定産業医
	渡部 拓	○	代謝・内分泌科部長 専攻医管理部長	北大	2006	日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医
	北原 かおり		代謝・内分泌・ 糖尿病内科医員	秋田大	2013	日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医
	葛巻 哲		代謝・内分泌・ 糖尿病内科医員	金沢大	2016	日本内科学会内科専門医
	山田 有		代謝・内分泌・ 糖尿病内科医員	旭医大	2017	
	松浦 結子		代謝・内分泌・ 糖尿病内科医員	札医大	2018	
	鈴木 奈緒子	○	代謝・内分泌・ 糖尿病内科医員	宮崎大	2011	日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医
緩和ケア内科	瀧川 千鶴子	○	副院長	旭医大	1984	日本緩和医療学会認定医・暫定指導医、日本麻酔科学会専門医、日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医、日本医師会認定産業医、日本臨床倫理学会臨床倫理認定医
	大場 洋子	○	緩和ケア内科部長	北大	1996	日本産科婦人科学会専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
	佐藤 雅子		緩和ケア内科部長代行	旭医大	1995	日本乳癌学会乳腺専門医、日本外科学会専門医、日本緩和医療学会認定医
	近藤 千尋	○	緩和ケア内科部長代行	北大	1998	日本精神神経学会専門医・指導医、日本総合病院精神医学会専門医・指導医、精神保健指定医、日本サイコオンコロジー学会登録精神腫瘍医
精神科	田中 輝明	○	精神科部長	北大	1995	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、認知症サポーター医、日本医師会認定産業医
外科	今 裕史		診療部次長 消化器外科部長 血液浄化センター長	北大	1991	日本外科学会外科専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本内視鏡学会技術認定取得者(消化器・一般外科)、日本腹部救急医学会認定医、da Vinci Robot surgery 術者 certification
	田村 元	○	乳腺外科部長	札医大	1984	日本外科学会外科専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
	井上 玲		呼吸器外科部長	北大	2004	日本外科学会外科専門医、日本呼吸器外科学会専門医、日本乳癌学会乳腺認定医
	水上 達三		外科医長	北大	2007	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会紹介がん外科治療認定医
	深作 慶友	○	外科医長	札医大	2007	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会専門医
小児科	小林 一郎	○	小児・アレルギー リウマチセンター長	北大	1984	日本小児科学会小児科専門医・指導医、日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医、日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医
	高橋 豊	○	小児・アレルギー特任部長	北大	1975	日本小児科学会小児科専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医
	縄手 満	○	小児科部長 児童精神部長	弘前大	1998	日本小児科学会小児科専門医・指導医
	大倉 有加	○	新生児科部長	杏林大	2001	日本小児科学会小児科専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医
	谷口 宏太		小児科医長	北大	2007	日本小児科学会小児科専門医
	下村 真毅		小児科医長	札医大	2009	日本小児科学会小児科専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医
	山田 聡		小児科医員	北大	2015	

担当分野	氏名	※	役職	出身校	卒業年度	資格等
整形外科	浅野 毅		整形外科部長	北大	2003	日本整形外科学会専門医・指導医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本骨粗鬆症学会認定医、日本体育協会認定スポーツドクター
	芝山 浩樹		整形外科医長	横浜医大	2005	日本整形外科学会専門医、日本形成外科学会専門医
	有田 皓介		整形外科医員		2018	
産婦人科	西 信也	○	母子・女性センター長	北大	1992	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本生殖医学会専門医、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定取得者(産婦人科領域)
	池田 研	○	産科部長	北大	1994	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本女性医学学会女性ヘルスクエア専門医、日本東洋医学会漢方専門医
	加藤 達矢		婦人科部長	北大	1999	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
	田中 理恵子	○	産婦人科医長	秋田大	2005	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
	木村 敬子		産婦人科医長	北大	2009	日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
	石塚 泰也		産婦人科医長	北大	2009	日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
麻酔科	渡部 亮	○	集中治療センター長 ICU部長 麻酔科部長 手術部長	北大	2001	日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医、日本集中治療医学会専門医
	早坂 怜	○	麻酔科医長 手術部医長	秋田大	2008	日本麻酔科学会麻酔科専門医、日本集中治療医学会集中治療専門医
	賢持 麻琴		麻酔科医長	札医大	2010	日本麻酔科学会認定医・指導医・機構専門医、日本心臓血管麻酔学会専門医、日本小児麻酔学会認定医
	野口 俊介		麻酔科医員	旭医大	2018	
	大崎 響子		麻酔科医員	北大	1999	日本麻酔科学会麻酔科専門医
	加藤 亮子		麻酔科医員	北大	2003	日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医
耳鼻咽喉科	百島 尚樹		耳鼻咽喉科部長	札医大	1999	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
	高橋 亜由美		耳鼻咽喉科医長	札医大	2010	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、補聴器相談医
眼科	野田 友子	○	眼科部長代行	信州大	2012	日本眼科学会専門医、細膜硝子体学会認定医
	木野田 さくら		眼科医員	札医大	2017	
	庄子 尚子		眼科医員	北大	2018	
泌尿器科	土屋 邦彦		泌尿器科部長	北大	1996	日本泌尿器学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、ロボット支援鏡視下手術認定資格
	川口 愛		泌尿器科医長	秋田大	2005	日本泌尿器科学会専門医・指導医
皮膚科	藤村 悠		皮膚科部長代行	富山大	2004	日本皮膚科学会専門医
	小川 弘記		皮膚科医員	旭医大	2018	

担当 分野	氏名	※	役職	出身校	卒業年度	資格等
診断科 病理科	鈴木 昭	○	病理診断科部長	北大	1999	日本病理学会病理専門医・指導医、日本臨床細胞学会 細胞診専門医、日本臨床検査医学会臨床検査管理医、死体解剖資格
	木内 隆之		病理診断科医長	北大	2012	日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格
	木内 静香		病理診断科医員	北大	2011	日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
脳神経外科	加藤 正仁		診療部部長 脳神経外科部長 医療安全管理部長	北大	1988	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本脳卒中学会専門医・指導医
心臓血管外科	佐藤 公治		心臓血管外科部長代行	札医大	2006	日本外科学会外科専門医・指導医、心臓血管外科専門医・修練指導者、胸部ステントグラフト実施医・指導医、腹部ステントグラフト実施医・指導医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、下肢静脈瘤に対する血管内治療実施医
放射線科	永倉 久泰		放射線科部長	札医大	1990	日本医学放射線学会 放射線治療専門医・指導医、日本放射線腫瘍学会放射線治療専門医
	小塚 陽		放射線科医員	札医大	2015	日本医学放射線学会専門医
放射線診断科	廣川 直樹	○	放射線診断科部長	札医大	1996	日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医、日本超音波医学会超音波専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医学放射線学会研修指導者
	浅井 真友美		放射線診断科医員	札医大	2007	日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本核医学会核医学専門医、日本核医学会PET核医学専門医
	秋葉 英成	○	放射線診断科医師	札医大	1984	日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者

5. 主な医療機関の指定

- ◆ 厚生労働省臨床研修指定病院
- ◆ 地域医療支援病院
- ◆ がん診療連携拠点病院
- ◆ 札幌市災害救急告示医療機関（けが・災害の外科系）
- ◆ 札幌市救急二次告示医療機関（循環器・呼吸器系、消化器系、小児科系、産婦人科系）
- ◆ 病院機能評価認定施設 3rdG:Ver.2.0

6. 学会認定施設

- ◆ 日本内科学会認定医制度教育病院
- ◆ 日本呼吸器学会認定施設
- ◆ 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設
- ◆ 日本呼吸器外科学会専門医認定機構認定関連施設
- ◆ 日本消化器内視鏡学会認定施設
- ◆ 日本気管支学会認定医制度認定施設
- ◆ 日本消化器病学会認定施設
- ◆ 日本消化器外科学会専門医研修施設
- ◆ 日本循環器学会循環器専門医研修施設
- ◆ 日本糖尿病学会認定教育施設
- ◆ 日本緩和医療学会認定研修施設
- ◆ 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ◆ 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ◆ 日本小児科学会認定医制度研修施設
- ◆ 日本アレルギー学会認定教育施設
- ◆ 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ◆ 日本乳癌学会認定医・専門医制度研修施設
- ◆ マンモグラフィー検診画像認定施設
- ◆ 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ◆ 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ◆ 胸部大動脈瘤ステントグラフト実施認定施設
- ◆ 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施認定施設
- ◆ 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- ◆ 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術実施施設
- ◆ 日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師研修施設
- ◆ 日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院
- ◆ 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ◆ 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ◆ 日本産婦人科学会認定制度卒後研修指導施設
- ◆ 日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ◆ 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録参加施設
- ◆ 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ◆ 日本整形外科学会認定制度研修施設
- ◆ 日本脳神経外科学会専門医訓練施設
- ◆ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ◆ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ◆ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ◆ 日本泌尿器科専門医教育施設基幹教育施設
- ◆ 日本麻酔科学会麻酔科指導病院認定施設
- ◆ 日本病理学会研修認定施設 B
- ◆ 日本臨床細胞学会認定施設
- ◆ 日本医学放射線学会専門医修練施設
- ◆ 日本放射線腫瘍学会認定協力施設
- ◆ 日本救急医学学会救急科専門医指定施設
- ◆ 優良人間ドック認定施設
- ◆ 優良総合健診施設
- ◆ 日本総合健診医学会研修施設
- ◆ 健康評価施設査定機構優良認定施設
- ◆ 日本カプセル内視鏡学会指導施設
- ◆ 日本臨床細胞学

7. 研修後の進路

当院は内科専門医研修プログラムと外科専門医プログラムの基幹病院ですので、初期臨床研修修了後も継続した研修が可能です（詳細については当院ホームページ参照のこと：<https://smc.kkr.or.com>）。これらの研修では当院から出向の形で他の国家公務員共済組合連合会病院での国内留学を認めます。さらに研究を目的に大学病院への紹介も行っています。

8. 身分待遇

1) 身分 非常勤職員

2) 待遇 給与 一年次 月額 355,000 円 二年次 月額 405,000 円

業務の都合により土日祝祭日に勤務する時は振替休日を与えます。

初期研修医の参加が必須の医局会や CPC、Cancer Board、感染対策や医療安全に関する講習会などへの時間外参加は、出席に応じた診療賞与を支給します。

日当直手当別途支給(病院日当直 21,000 円/日+a 週 1 回程度) 時間外手当支給

社会保険（健康保険、厚生年金、雇用保険、労災）

制服（診察衣）支給、包括勤務医師賠償責任保険加入

3) 勤務時間 午前 8 時 3 0 分～午後 5 時 1 5 分

4) 休暇 土曜、日曜、国民の祝祭日、有給休暇（1 年次：15 日、2 年次：16 日）夏季休暇
年末年始、創立記念日、冠婚葬祭等に伴う特別有給休暇

5) 住居 初期研修医は原則当院指定の住居に入居のこと（自己負担 5,000 円）
都合により入居できない場合は所定の住居手当になります。

6) その他 初期研修医のアルバイト診療は禁止します。

9. 研修環境



研修医ブースには個々の学習機があり集中して学習に取り組む事ができます。また有線 LAN・WIFI などのネット環境も完備しております。研修医同士の空間ですので気がねなく過ごす事ができます。



医局ラウンジにはいつも豊富な飲み物が揃っております。近くに色々な科の上級医がいますのでお茶を飲みながらコミュニケーションがとれるのも当院の特徴です。



研修医専用の当直室を完備。当直時や当直明けの休憩など専用のお部屋ですのでいつでも使用が可能です。

その他の環境

シャワー室・洗面台完備・冷蔵庫・電子レンジ完備・更衣ロッカー貸与・個人用メール BOX・白衣クリーニング(週 2 回無料)・院内携帯貸与・医師事務補助配置・職員食堂・セブンイレブン(6 時～22 時)

10. 図書施設などの環境

- | | |
|-------------------|--|
| 1) 図書室の広さ | 128 m ² |
| 2) 医学図書数 | 国内図書 3,258 冊、国外図書 479 冊 |
| 3) 定期購読医学雑誌数 | 和雑誌：58 誌/洋雑誌：20 誌/電子ジャーナル：6,720 タイトル |
| 4) 文献データベース等の利用環境 | Medline 等の文献データベース：有 |
| 5) 医学教育用機材 | 医学教育用シミュレーター：有
各種内視鏡トレーニングモデル(超音波気管支、上部消化管、大腸)：各一式 画像診断研修端末：2 台 |
| 6) インターネット | 接続：有 |



1 1 . 多職種交流(福利厚生)

医局内では年 2 回(仕事納め会 12 月・送別会 3 月)全科が集まって交流会を行っています。

職員同士の親睦会では、新人歓迎会・ビールパーティ・年末大忘年会等での交流や部活動(野球部・ゴルフ部・麻雀部・釣り部・テニス部・スキースノーボード部・華道部・英会話部・バトミントン部・フットサル部・キャンプ部)が盛んで職種の垣根を超えて活発な交流を行っています。

また、職員同士の旅行の補助や映画券の補助・スキー場リフト券の補助もありますので多くの職員が利用し交流を深めています。



12. 2024年度 募集要項

- 1) 応募資格 2024年（令和6年）3月卒業予定者で、医師国家試験合格見込者
卒業後2年以内の医師も応募可能ですが、研修は1年次扱いとなります。
ただし、地域枠などの在籍（出身）大学との取り決めがあり、2024年度に当院で初期臨床研修を行うことができない方を除きます。
- 2) 募集人員 7名
- 3) 応募手続 履歴書（写真貼付、当院様式；当院ホームページ <https://smc.kkr.or.jp>,
研修医募集→初期臨床研修よりダウンロードすることが可能）、卒業見込証明書、成績証明書
- 4) 選考方法 面接(下記面接日7日前までに履歴書を臨床研修センターまで送付のこと)
第1回目 2023年8月 9日（水）
第2回目 2023年8月23日（水）
第3回目 2023年9月 6日（水）
(上記日程で面接が難しい場合には連絡下さい)
- 5) 応募締切 最終締切日 **第1回目 2023年8月 2日（水）必着**
第2回目 2023年8月16日（水）必着
第3回目 2023年8月30日（水）必着
- 6) 研修期間 2024年4月1日～2026年3月31日の2年間

出願書類提出先

下記の提出先に郵送又は持参により提出ください。

〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40

KKR 札幌医療センター臨床研修センター 百瀬 苑



病院見学について

KKR 札幌医療センターでは、医学生の見学を歓迎いたします。ご希望に添えるよう日程調整いたしますのでお気軽に研修センターまでお問合せください。

病院見学の申込みはホームページ (<https://smc.kkr.or.jp/web/training/>) から受付できます。

① お名前(フリガナ) ②所属大学(学年・年齢) ③見学希望日 ④見学希望科 ⑤連絡先 ⑥メールアドレス

※日時の調整にお時間を要することがありますので日程は余裕をもってご連絡ください。

研修に関する連絡、問い合わせ先

KKR 札幌医療センター 臨床研修センター(担当 百瀬)

電話 011-822-1811 ファックス 011-841-4572

メールアドレス : kensyu@kkр-smc.com

ホームページ : <https://smc.kkr.or.jp>